

第16回 日本高齢者虐待防止学会蒲田大会

## チーム力を高めるケースカンファレンス

—AAA式多機関ケースカンファレンス・シートの有用性—

2019年9月7日

○松本葉子（田園調布学園大学） 副田あけみ（関東学院大学）

長沼葉月（首都大学東京） 土屋典子（立正大学）

安心づくり安全探しアプローチ研究会 <http://elderabuse-aaa.com/>

# 1. 研究の背景

## ① 虐待事例に対するチームアプローチの困難性

虐待や多問題という事態、当事者の消極的・拒否的態度等



支援者間に否定的感情（不安・緊張感・対処困難感・回避感情等）



認識・意見の違いの受け入れ困難。建設的な意見交換・意見調整困難



相互不信感や感情的対立等からチームアプローチが困難：特定の機関・職種に支援の押し付け、柔軟な役割分担困難、情報共有・連携が困難

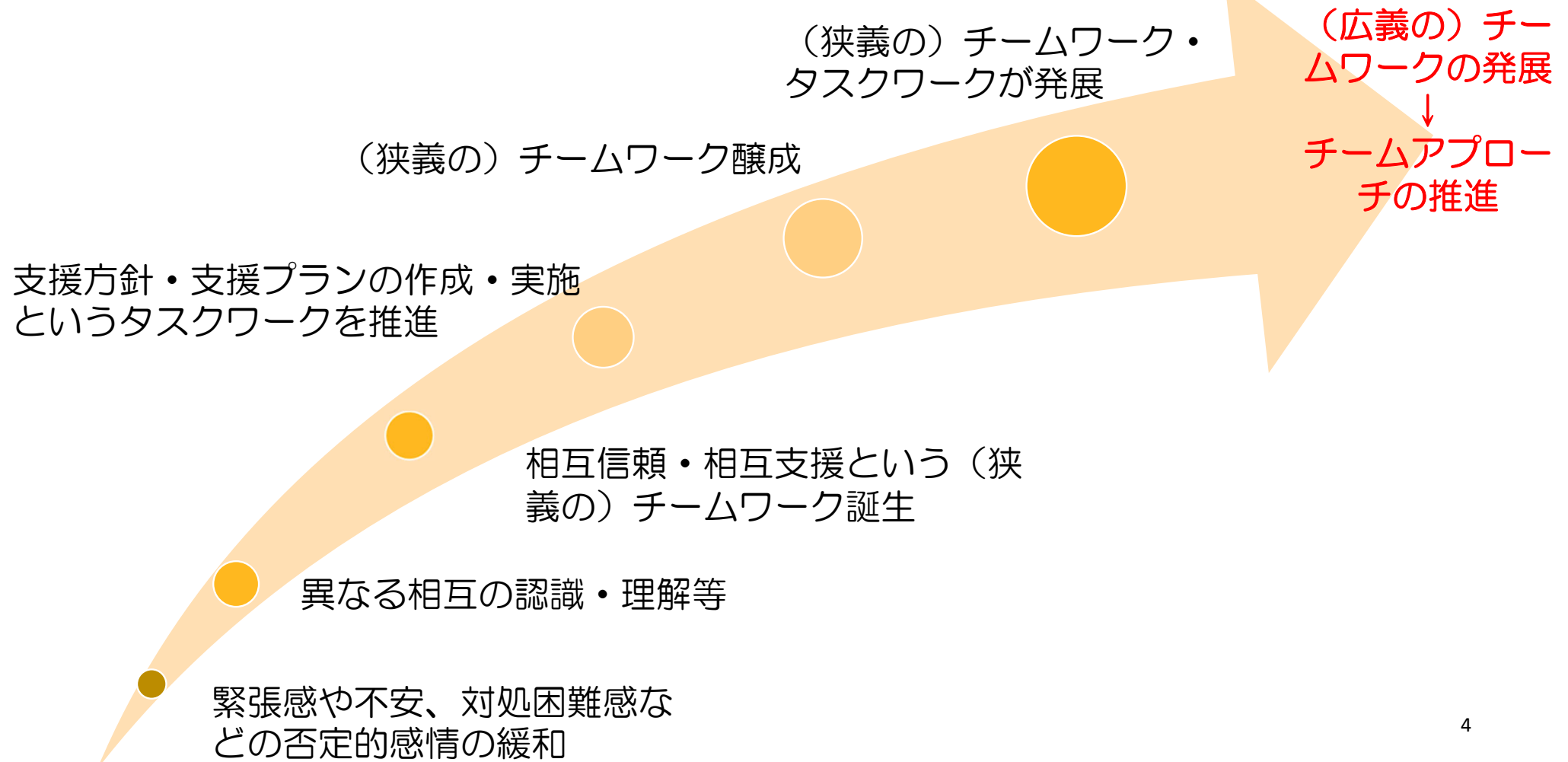
# 1. 研究の背景

## ②チームアプローチ推進の核となるのはケースカンファレンス

しかし、ケースカンファレンスに関する既存研究において、参加者の相互理解や関係性の深化、相互信頼や相互支援といったチームワークの推進を、ケースカンファレンスの主たる目的として捉え、その目的のためのツール開発研究を行った例は、管見の限り無し。

# 1. 研究の背景

## ③ チームアプローチを推進するケースカンファレンス



## 2. 研究目的

### ①チームワーク発展のためのツール作成

解決志向アプローチ、サインズオブセーフティ・アプローチ、リフレクティング・プロセス等の発想を援用

☞資料1：AAA多機関ケースカンファレンス・シート（以下、本シート）

### ②研究目的：ツールの有用性評価

本シート活用のケースカンファレンスが、チームワークの発展に寄与するか、どのように寄与するか、有用性の検証

## (資料1) 本シートの特徴

- ① ストレングス視点、次いで問題・リスクの視点から、本人・家族の状況を理解
- ② 事例理解より支援者の関わり方に焦点を当て、複眼的視点から振り返る
- ③ 本人・家族の望みを確認
- ④ 参加者間の対話を重視（内なる対話）：安全像の構築と安全到達度を評価
- ⑤ 今後の取組みアイデアと見通しの確認（近い未来に対する希望と不安の共有）

## 3. 研究方法

### ◎調査方法

- 半構造化法による電話インタビュー、質問紙調査（インタビュー・ガイドラインに沿った質問項目）

### ◎調査協力者

- 本シート活用のケースカンファレンス実施者：電話インタビュー対象者：ファシリテーター（20名）・参加者（40名）延べ60名、質問紙調査回答者：延べ16名 ⇒ 分析対象数76
- シート活用のケースカンファレンス事例実数は27事例

◎調査期間：調査実施：2016年10月～2018年11月末

◎分析方法：インタビューデータの逐語録・メモ、質問紙調査の自由記述  
部分のデータをオープンコード化

・インタビューガイドの質問項目：「本シートを活用した感想」、「本シートを活用することで満足した点」、「本シート活用で印象に残った点」、「本シート活用でケース対応はうまくいきそうか」「本シート活用のケースカンファレンスで参加者間のコミュニケーションや協働で変化はあったか/ありそうか」等

これらを尋ねた回答に焦点を当て、本シート活用のメリット、意義、成果、効果といった意味合いで語られている内容で類似のものをコード化

・類似コードをさらにサブカテゴリーにまとめ、類似のサブカテゴリーをカテゴリーにまとめた。共同研究者らとの協議を通して分析整理

◎倫理的配慮：抄録に記載した通り



## < 27事例のケースカンファレンスの主な目的と事例タイプ >

目的の種類	事例タイプ
i 支援プランの作成・モニタリング・再統合の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 配偶者／きょうだい／成人子／成人子の配偶者による、高齢者への身体的虐待事例、心理的虐待事例、ネグレクト事例：10例</li> <li>• 配偶者／きょうだいによる障害者虐待事例：2例</li> <li>• 障害者の生活支援事例：1例</li> </ul>
ii 関係機関間の情報共有や認識のズレの解消・膠着状態の打開	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 成人子による高齢者への身体的暴力事例、ネグレクト事例：4例</li> <li>• 認知症単身高齢者の生活支援事例：1事例</li> <li>• 家族全員の生活支援事例：1事例</li> <li>• 困窮家庭の児童ネグレクト事例：1事例</li> <li>• 障害者の親への暴力事例：1例</li> </ul>
iii 対応に苦慮する主担当者への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 成人子による高齢者虐待事例：1例</li> <li>• 高齢者と同居する成人子への対応事例：1事例</li> <li>• 高齢者夫婦への生活支援事例：1事例</li> <li>• 認知症高齢者死亡事例：1事例</li> <li>• 障害者の生活支援事例：2事例</li> </ul>

## 4. 分析結果

- 分析結果（オープンコーディングと焦点的コーディング作業の結果） □ 資料2, 3  
生成したコード41個  
⇒意味の近い類似のコードを17個のサブカテゴリーに。  
⇒さらに意味の近い類似のサブカテゴリーを5つのカテゴリーに。

A【肯定的感情の生成・共有】

B【参加者全員の発言と相互理解】

C【話し合いの促進と納得のいく支援プランの決定】

.....

D【協働の推進とチーム意識の醸成・強化】

E【状況改善・緊急対応】

ケースカンファレンス  
の効果

ケースカンファレンス  
の成果

## 5. まとめと考察

本シート活用のケースカンファレンスは、

- \*狭義のチームワークであるA【肯定的感情とチーム意識の生成】、  
B【参加者全員の発言と相互理解の促進】というメンバー間の相互理解・相互信頼等良好な関係性：チームワークの形成・強化。
- \*C【話し合いの促進と納得のいく支援プランの決定】：タスクワークの推進。
- \*A、B、Cの結果として、D【協働の推進とチーム意識の醸成】とE【状況改善・緊急対応】という状況改善等の成果をもたらす。

⇒虐待事例へのチームアプローチを行う多機関・多職種から成るネットワーク型チームのチーム力を高めることに貢献できる。

## 6. 課題

- 分析事例数を増やす（多様な複合問題事例に応用）。  
新たなコードやカテゴリーの誕生の可能性あり
- 本シート活用の拡大・浸透を図る方法の検討

『チーム力を高める多機関協働ケースカンファレンス』安心づくり安全探しアプローチ (AAA) 研究会 著 瀬谷出版 (株) 2019.9

### 参考文献

岩間伸之（2016）「ソーシャルワーク実践の潮流とケースカンファレンス①-地域で展開する「連携と協働」の方法-」ソーシャルワーク研究42-1,5-12

久保昌昭・横山正博（2010）「事例検討会を通じたソーシャルワーカーの実践力向上に関するモデル作成の試み-ソーシャルワークの機能を実践で生かすために-」山口県立大学学術情報第3号，大学院論集，73-80

野中猛・上原久（2013）「ケア会議で学ぶケアマネジメントの本質」中央法規，45-51

米山祐子（2016）「子ども家庭支援センターにおける連携と協働-その連携のありかたとケースカンファレンス-」 簗口雅博編『コミュニティ・アプローチの実践』遠見書房